

共同利用・共同研究成果発表会

日時：平成 30 年 3 月 1 日 (木) 13:00 ~ 18:00

平成 30 年 3 月 2 日 (金) 9:30 ~ 14:35

会場：高知大学 海洋コア総合研究センター セミナー室

海洋コア総合研究センターは、海洋コアの総合的な解析を通じ、地球環境変動の要因の解明や海洋底資源の基礎研究を行うことを目的として設立された共同利用研究施設です。この成果発表会は、広く全国の皆様に今年度の研究成果をご紹介します。

3月1日(木)

13:00-13:10 開会挨拶

高知大学 海洋コア総合研究センター長 徳山 英一

共同利用・共同研究拠点課題選定委員会委員長 国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質情報研究部門 首席研究員 池原 研

13:10-14:25 (座長:池原 実)

O-01「ビリミアン帯に残される22億年前の島弧性オフィオライトセクションと海底層序:ケープスリーポイントセクション,西ガーナ」清川 昌一(九州大学)

O-02「32億年前の西オーストラリア・ビルバラ地域の環境復元」三木 翼(九州大学)

O-03「古生代の硫黄・炭素同位体変動と海洋環境:ケープスミス帯」元村 健人(九州大学)

O-04「薩摩硫黄島・長浜湾における海底環境長期変動記録(トラップコアに残される10年間の記録)」酒本 直弥(九州大学)

O-05「KH-13-5で採取された八丈島沖のイベント堆積物」川村 喜一郎(山口大学)

14:40-15:55 (座長:氏家 由利香)

O-06「Dating the N7/N8 planktonic foraminiferal zonal boundary」星 博幸(愛知教育大学)

O-07「ベーリング海IODP323次掘削コアU1343およびU1344に介在する第四紀テフラの岩石学的特徴と層序」青木 かおり(立正大学)

O-08「ITRAXを用いた日本海における過去70万年間の炭酸塩補償深度変動の高解像度連続復元」三武 司(東京大学)

O-09「北西太平洋地域におけるMatuyama-Brunhes境界付近の古海洋変動」紫谷 築(島根大学)

O-10「中期更新世初期,北半球大西洋-太平洋の千年スケールの気候テレコネクション」兵頭 政幸(神戸大学)

16:00-18:00 ポスター発表:概要紹介,引き続いてコアタイム(座長:山口 龍彦)

P-01「温泉水の希土類元素パターンに対する再検討」堀 真子(大阪教育大学)

P-02「海底熱水性硫酸塩鉱物の放射非平衡年代測定」豊田 新(岡山理科大学)

P-03「深海底マイクロプラスチック年代決定論」川村 喜一郎(山口大学)

P-04「地震性泥質タービダイトを用いた地震履歴推定の試み」奥津 なつみ(東京大学)

P-05「日本海新潟沖で発見された円錐台地形が泥火山なのか判断する」蛭田 明宏(明治大学)

P-06「日本海水深500メートル付近の底生有孔虫の酸素同位体比の変化」蛭田 明宏(明治大学)

P-07「貝形虫殻の酸素同位体比に基づく過去2800年間の東アジアモンスーン変動」小原 一馬(信州大学)

P-08「チリ沖海底堆積物を用いた南半球の気候変動復元:予察的研究で見えてきたこと」長島 佳菜(海洋研究開発機構)

P-09「サンゴ骨格中の $\delta^{18}O$ とSr/Ca比によるジャワ海の海洋環境復元と気候変動との関係」源田 亜衣(岡山大学)

P-10「Using stable isotope composition of benthic foraminifera and sediment geochemistry to infer past methane release from Holocene cold seeps of Hidaka Trough, northwestern Pacific」Saeidi Ortakand M. (Meiji University)

P-11「後期鮮新世の日本海表層~中層域の古水温変動」山田 桂(信州大学)

P-12「日本海の堆積物の地球化学分析から探るアジアのモンスーン気候の変遷」増田 沙恵佳(東邦大学)

P-13「瀬戸内区における中新統・鮮新統の古風化史:古土壌相・化学風化強度・粘土鉱物組成を指標として」葉田野 希(信州大学)

P-14「始新世後期のメキシコ湾岸の表層水塊の挙動」山口 龍彦(高知大学)

P-15「IODP Exp. 364 “Chicxulub Impact Crater” の暁新世~中新世の炭酸塩岩の炭素・酸素同位体の地球化学」小椋 千尋(東邦大学)

P-16「モンゴル年縞湖成層のXRFコアスキャナー分析から読み解く白亜紀の千年周期気候変動と太陽活動の気候影響」長谷川 精(高知大学)

P-17「西オーストラリア・クリバービル層の約32億年前の堆積岩の地球化学」藤田 沙織(東邦大学)

P-18「IODP Site U1490 の古地磁気層序 Magnetostatigraphy of IODP Site U1490」熊谷 祐穂(東北大学)

P-19「Paleointensity variation at 30 Ma obtained from Ethiopian Large Igneous Province (LIP)」Yutaka Yoshimura (The University of Tokyo)

P-20「富士火山,青木ヶ原溶岩流の古地磁気学的研究」馬場 章(山梨県富士山科学研究所)

P-21「表層型ガスハイドレート産出域堆積物の磁気特性」下野 貴也(明治大学)

P-22「Rock magnetic characterization of bedded chert sequences: a step towards building a model of bedded chert formation.」Alexandra Abrajvitch (Ehime University)

P-23「丹波帯篠山地域に分布する石炭系~ペルム系層状チャートから得られた古地磁気層序」山下 大輔(熊本大学)

3月2日(金)

9:30-10:30 (座長:岩井 雅夫)

O-11「鉱物情報に着目した科学捜査試料の新規異同識別法の開発」西脇 芳典(高知大学)

O-12「導電染色および樹脂包埋した底生有孔虫細胞質の立体構造観察」野牧 秀隆(海洋研究開発機構)

O-13「含水堆積物コアの非破壊XRF強度における含水率の影響と補正」勝田 長貴(岐阜大学)

O-14「東京湾岸埋立地北部での2011年東北地方太平洋沖地震時における液状化-流動化層準と沖積層の影響について」風岡 修(千葉県環境研究センター)

10:45-11:45 (座長:浦本 豪一郎)

O-15「デボン紀肉鰭類Eusthenopteron foodiの歯の組織と歯の支持様式」三島 弘幸(鶴見大学)

O-16「地球化学的手法に基づく四万十帯延岡衝上断層における流体移動の解析」長谷川 亮太(東京大学)

O-17「日本海溝に沈み込む遠洋性堆積物の不均質分布とプレート境界断層浅部のすべり伝播」山口 飛鳥(東京大学)

O-18「海底堆積物中のイベント層を用いた地震発生履歴解明に向けたイベント層の認定の現状と課題」池原 研(産業技術総合研究所)

11:45-13:15 昼休み

13:15-14:30 (座長:山本 裕二)

O-19「白亜紀入遠野花崗岩から分離した鉱物単結晶の岩石磁気及び古地磁気強度実験」加藤 千恵(東京工業大学)

O-20「遠洋性堆積物中の石英・長石粒子の磁気インクルージョン分析」臼井 洋一(海洋研究開発機構)

O-21「還元化学消磁による堆積岩中の磁性鉱物の変化と磁気層序(予察)-熱消磁時CRMの抑制について-」穴井 千里(熊本大学)

O-22「琵琶湖堆積物の高分解能古地磁気測定」小田 啓邦(産業技術総合研究所)

O-23「別府湾海底堆積物から得られた古地磁気永年変化の記録」林田 明(同志社大学)

14:30-14:35 閉会挨拶

高知大学 海洋コア総合研究センター 副センター長 岩井 雅夫